

豚流行性下痢 とは

1 原因(病原体)
豚流行性下痢ウイルス

2 感受性動物
豚、いのしし

3 症状
水様性下痢を主徴とし、10日齢以下のほ乳豚では脱水症状で高率に死亡する。



【黄色水様性下痢便】
(出典: 日本獣医師会)

4 発生状況

(1) 国内

2013年10月、7年ぶりに発生。

	平成13年	平成14～17年	平成18年	平成19～24年	平成25年	平成26年※
戸数	2	0	1	0	45	191
頭数	2,218	0	3	0	72,950	200,639

〔平成24年までは家畜伝染病予防法第4条に基づく届出、平成25年以降は発症報告のあった頭数を含む。平成26年は3月31日現在の速報値。〕

(2) 外国

アジア: 中国、韓国、ベトナム、タイ、台湾等。2010年以降、中国各地で7日齢以下の哺乳豚を中心とする発生が増加し、PEDによる被害が深刻化している。韓国では、2013年11月末以降、PEDの発生が増加傾向にある。台湾では2014年1月に中国及び米国での発生と同様のウイルス株による発生が報告されている。

北米: 米国では、2013年4月にPEDを疑う下痢の発生が初めて確認され、発生は急速に拡大、4月には1州計2件であったが、2014年3月26日現在、27州計5,019件の発生が報告されている。カナダでは、2014年1月にPEDの発生が確認されている。

欧州: イギリス、ベルギーなど。散発的に発生するのみであり、低い割合で抗体陽性豚は確認されているものの、大きな流行には至っていない。

5 診断法

(1) 免疫組織化学的染色によるウイルス抗原の検出

(2) RT-PCRによる糞便中のウイルス遺伝子の検出

6 予防法

飼養衛生管理の徹底

7 ワクチン接種

2回接種した妊娠豚の乳を飲むと、子豚の発症を防いだり、症状を軽くすることが可能。

8 治療法、対策

保温、補液による脱水防止等、対症療法を行う。